

三條南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



2010. 9.27

No.1968
No.10



出席率	会員51名中36名
先々週の出席率	91.30%
ヴィジター	三条RCより 熊倉昌平君 平原信行君
先週の メイクアップ	9/14 分水RCへ 荻澤喜一郎君 9/16 加茂RCへ 荻澤喜一郎君 佐々木常行君 渡邊久晃君 9/18 ガバナー連絡会（柏崎）へ 馬場信彦君 荻澤喜一郎君 9/21 三条北RCへ 馬場一敏君 野島廣一郎君 佐々木常行君 田中悌司君 9/22 三条RCへ 荻澤喜一郎君 馬場一敏君 野島廣一郎君 渡邊久晃君 9/24 吉田RCへ 荻澤喜一郎君 9/25 糸魚川RC50周年記念式典へ 馬場信彦君 荻澤喜一郎君 野崎正明君 9/25 ライラ研修セミナー（新発田）へ ～26 荒澤威彦君 永桶俊一君



会長挨拶

三條南ロータリークラブ 会長
大 溪 秀 夫

皆さん、こんにちは。

先ず初めに、9月23日に丸山征夫会員のお母様がお逝去されましたこととお知らせいたします。謹んでお悔やみ申し上げます。

この9月20日は敬老の日でありました。総務省が19日に発表した推計によると、65歳以上の高齢者は前年に比べ46万人増の2,944万人で、総人口に占める割合は0.4%増えて23.1%となりました。男女別の高齢者数は男性1,258万人で全男性人口の20.3%を占め、初めて20%を超えました。女性は1,685万人で全女性人口の25.8%となっています。ちなみに新潟県では65歳以上の人口が前年より4,000人増え、62万3,000人となっています。県人口に占める割合も前年より0.3%上昇し、26.3%となりました。

また、2009年に就業している65歳以上の人は565万人で、就業率は上昇傾向であり、ある分析によると、65歳以上の世帯の2009年平均貯蓄高は2,350万円で、65歳未満の1,327万円を大きく上まっています。

そして、1950年（これは私が生まれた年ですが）に37万人であった80歳以上の人は、この60年間で約22倍の800万人を超える人数となっています。

ところで、厚生労働省の文書偽造事件で、無罪が確定し、約1年3カ月ぶりに復職した村木厚子さんは、内閣府の政策統括官（共生社会政策



国際ロータリー会長 レイ・クリンギンスミス [アメリカ]
第2560地区ガバナー 東山 昕也 [高田]
第4分区AG 荻澤喜一郎 [三条南]
会 長 大 溪 秀 夫
幹 事 野 崎 正 明
S A A 平 松 修 之

事務局 〒955-8666 三条市旭町2-5-10

三條信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp

担当)に起用されることになりました。そしてこの捜査を担当した主任検事はフロッピーディスク(FD)のデータ改ざんの容疑で逮捕されるという前代未聞の事件となりました。信頼の回復には徹底説明が必要であり、また、一度失った信頼を取り戻すのは容易ではなく、5~10年かかると言われています。

もう一つ、やはり甘い体質で信頼が地に落ちた大相撲では、横綱白鵬が連勝し、連勝記録を塗り替えるかもしれないという期待が出てきました。双葉山の69連勝は年2場所、足掛け4年をかけて成し遂げられたもので、現在と条件は違いますが、頑張っしてほしいと思います。

一方、嬉しいニュースもあります。9月24日、イチロー選手がアメリカ大リーグにおいて前人未踏の10年連続200本安打の偉業を達成しました。「簡単でないことは、僕が一番知っている」という、イチロー自身の言葉は感動です。こちら益々の活躍を期待します。

本日は、歴代会長卓話で、馬場パストガバナーのお話であります。よろしくお願いいたします。



ようこそ三條南クラブへ ヴィジター
三條 RC 熊倉昌平さん 平原信行さん

幹事報告

野崎 正明 幹事

東山ガバナー事務所より 10月ロータリーレートのご案内

10月1日より 現行と同じく 1ドル = 86円

ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

~ 9月27日 17,000円
今年度累計 228,000円~

三條RC

熊倉君 久しぶりにメイクアップさせていただきました。
平原君 久しぶりにメイクアップさせていただきます。
馬場パストガバナーの卓話ご苦労様です。

大溪君 本日は第20代会長の馬場パストガバナーの卓話です。よろしくお願いいたします。

野崎君 馬場パストガバナー、本日の卓話宜しく願いいたします。

馬場(信)君 本日卓話当番です。「昔のロータリーをふり返ろう!」と題して話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。
糸魚川RC50周年では野崎幹事さんから行き帰りと同乗させていただき感謝しています。

鈴木(園)君 パストガバナーの馬場信彦さん、今日の卓話どんな「話」か楽しみです。

西巻君、平松君、星野君、三野輪君

馬場パストガバナー、卓話ご苦労様です。
楽しみにしています。

坪井君

1) 昨日、久しぶりの好天に恵まれた秋空の下恒例の三條医師会、歯科医師会合同のゴルフコンペが開催されました。私は、医師会の部で優勝、幹事役の草野先生は、合同の部で優勝でした。

2) 馬場さんの卓話、期待しています。

吉井君

富山県滑川の会社に就職した、米山奨学生のタキ君が久々に里帰ります。
加茂RC50周年にも参加させていただきます。
馬場前ガバナーの卓話楽しみにしています。

渡邊(久)君

同級会で、九州まで列車の旅を楽しんで来ました。

佐藤(秀)君、田中君、野中君、渡邊(光)君

BOXに協力いたします。

温故知新

* 歴代会長卓話 II

第二十代会長

馬 場 信 彦 会 員

「昔のロータリーを振り返ろう！」



今、NEXT 社会に向かっている時期に入っていると言われています。どんな世の中になるのか分かりませんが、世の中の仕組みが今までと違ってきていて、何かと惑うことが多々ありませんか。

私は、ガバナーを経験させていただいて、諺に「井の中の蛙大海を知らず」がありますが、はっきりと「井の中の蛙であったことを」自覚出来たことを知りました。やっぱり、ロータリーは世界組織で人材も事業も世界的だという実感です。つまり、端的に言えば、「ロータリー運動は奥深いものだ。底知れないものが有る」ということを、知りました。

1906 年（明治 39）、ロータリークラブが誕生した翌年にこの世を去られた、イギリスの法史学会の権威、ウィリヤム・メイトランドは、「我々が歴史を学ぶのは単に過去を追憶するためではない。過去を学ぶことによって初めて現在を認識することが出来る。この過去・現在の正しい認識を踏まえて初めて未来を展望することができる。歴史を学ばない者には、現在および未来を語る資格がない」と、説いています。

この視点でロータリーの歴史を学ぶことによって、ロータリーを正しく認識し、初めて未来のロータリーを展望することができるのではないのでしょうか。ぜひ、毎月発行される『ロータリーの友』、ホームページでの「ロータリージャパン」「Rotary.org」「ロータリー文庫」などの利用、そして、「グーグル」「ヤフー」の検索機能の利用で、かなりのロータリー情報が得られますので、良く学びきっかけにいただけると大変嬉しいです。

そこでロータリー運動の足跡を振り返ってみたいと思います。1905 年 2 月 23 日、シカゴ市でロータリーが 4 名の仲間によって誕生しました。草創期のロータリーには奉仕の考えなどありませんでした。クラブ会員が仲良く助け合う、ただ親睦だけのロータリーでした。この助け合うことの意味は、ロータリアンは職業人ですから、自分の企業経営上の悩みをクラブに持ち寄って知恵を出し合ったと伝えられています。例えば、ある会員が「うち

の会社では、今、こんなことで悩んでいるんだ」と言います。当時は、「1 業種 1 会員制」ですから、それぞれ業界の発想が違います。そこで、「そんなことなら、うちの業界では解決済みだよ。こうしてごらん」と、教えてくれました。その会員は、「ありがとう」と、お礼を言って、その考え方を自分の企業に適用していきます。また、ある問題で未解決の場合は、「3 人寄れば文殊の知恵」の言葉があるように、皆で衆知を集めて解決していききました。こんなふうにして、皆で知恵を出し合い、アイデアを交換して、お互いに助け合っていました。ですから、クラブ自体が経営相談所の機能を果たしていました。この発想の交換による例会出席の重要性を再認識することが、必要なことでないでしょうか。

このクラブ例会のアイデアの交換が、「職業奉仕」を生み出すに至ったのですが、多くの日本のロータリアンは、例会で食事をとり、会長挨拶、各種報告、ボックス、楽しい卓話とつづき例会は終わります。大都會のクラブに行くほど、卓話も聞かず食事だけで帰ってしまうロータリアンが多いと言われています。こんな揶揄した話があります。イギリス近代演劇の確立者で、ノーベル文学賞受賞者である George Bernard shaw(ジョージ・バーナード・ショウ)は、「ロータリーはどこへ行く。俺は知っている。あいつらは昼飯を食いに行くんだ」。もう一つ、数年前の外国のバスターガバナーが、「Rotary, rest in Peace(平和の中に横たわるロータリー)」、すなわち、「死せるロータリー」と言っています。今、まさに淘汰される厳しい時代だけに、ロータリー創立当初のお互いに助け合うロータリークラブが必要になってきているのではないのでしょうか。

最初に、106 年余のロータリー運動の軌跡をふりかえってみますと、1905 年（明治 38）2 月 23 日、ポール・ハリスがシルベスター・シール、ガスターバス・ローア、ハイラム・ショーレーの 4 人でシカゴにロータリークラブを創設し、正式名決定までは“Booster”(相互応援)クラブと自称し、例会ではロータリーソングの慣習が始まりました。

最初の会合で、ポール・ハリスは、「1 つのクラブから 1 人の会員を選ぼう」という 1 業種 1 会員制の原則が採択されました。このことはどういうことかと申しますと、資本主義社会は自由競争が基本です。クラブの会員たちにとっては同業者とは正に食うか食われるかの関係ですから、競争相手がいるためにある種の危機感を持ちます。それは、「自分が潰れる前に、あいつが潰れて欲しいな」と言うわけの分からない感情の虜にもなります。また、同業者はお互いに良い所を知っていますが、悪い所や汚いところ、醜いところも知りつくしています。「あ

「いつは俺の欠点を知っているな」という意識がありますから、どうしても心を開いてお互いに仲良くなることがなく、クラブで親睦が保てません。そこでポール・ハリスは、同業者をクラブに入れるのは止めて、1つの職種から1人だけを選ぶという「1業種1会員制」を採用しました。この原則はクラブの親睦を守るためにポール・ハリス自身が提案したロータリーの基本原則なのです。

それから更に1か月経った3月23日は、会員が増えて9人になっておりました。この9人でシカゴロータリークラブは創立総会を開きました。このときには、「4回連続して例会欠席をした者は自動的に会員資格を失う」という原則を決めました。これは、何故かと言いますと、当時のロータリアンは、お金持ちは一人もおらず、みんな貧乏人でしたので、零細企業の集まりでした。お互いに貧しく、厳しい経済状況の中で、助け合って生きていくためには皆仲良くしなければなりません。お互いに励ましあって「例会には必ず出てこいよ」が挨拶言葉になっていました。例会は当時、2週間に一回の例会で、4回連続して欠席することは、2か月間クラブ例会にでてこないということになります。したがって、「2か月間も欠席して、互いの安否を気遣わず、助け合いもしない。そんな冷たい会員は仲間じゃない。辞めてもらおう」が、規則的例会出席の原則とした心でした。これはクラブの親睦を守るためにクラブが決めたロータリーの組織上の基本原則でした。この時点では親睦だけのロータリークラブでした。

1906年（明治39）、綱領で「会員間の親交と、会員相互の職業上の利益を計り、シカゴ市の振興を目的とする」を掲げ、クラブの徽章に「車輪のマーク」を採用しました。

1907年（明治40）に、「世のため人のためのことも考えよう」と、奉仕の概念が生まれます。この年に、シカゴRCは、シカゴ市に公衆トイレを寄付（社会奉仕の最初）します。翌年の1908年（明治41）に、サンフランシスコに2番目のRCが誕生。更に、1909年（明治42）に、オークランドにRC（定例週例会最初のクラブ）、1910年（明治43）8月、最初のロータリー大会をシカゴで開催されました。同月、ロータリーが国境を越えてカナダのウイニペグRCが誕生しました。1911年（明治44）『National Rotarian』が発刊。英国のアイルランドにRCが誕生。1912年（大正元）8月 Duluth 大会で組織名を「The International Association of Rotary Club」に変更。同大会で、職業奉仕と社会奉仕が重点の5か条の綱領を含む最初のクラブ定款を採択。歯車の刻みがあるロータリー徽章を初めて採用。

1915年（大正4）、サンフランシスコ国際大会が開催、大会で全分野の職業人を対象に「ロータリーの倫理訓（別称ロータリーの道徳律）」を採択し、ロータリアンの個人倫理を確立し、ロータリー旗の正式規格を制定しました。翌年には、キューバのハバナに初めてRCが誕生。1917年（大正6）に、Rotary Foundation（ロータリー財団）の前の組織 Rotary Endowment（ロータリー寄付金）を設置。同年6月には、シカゴ市でライオンズクラブが設立。1917年（大正7）10月に目賀田種太郎男爵を団長とする政

府派遣財政経済委員として渡米した米山梅吉（三井銀行役員）が、1948年の正月をダラスの福島喜三次宅で過ごしていました。ダラス RC 会員であった福島にゲストとしてダラスクラブの例会に出席したことから、米山はロータリーと出会ったのです。1919年（大正8）には、世界のRCは、500クラブに達しました。1920年（大正9）10月日本のロータリークラブ1号、東京RC（登録番号855）、1921年10月、世界のロータリーが1000に達します。米国以外での最初の国際大会がスコットランドのエジンバラで開催。同大会で国際性を強調して、「平和と善意」が綱領に加えられました。1922年（大正11）6月、本部組織を Rotary International（略称 RI）に変更。ロータリーはロサンゼルスで国際大会で、国際ロータリーの定款、細則、標準ロータリークラブ定款を採択し、ロータリーの組織原理を確立しました。同年11月、大阪に日本第2番目のRCが誕生（登録番号1349）。1923年（大正12）、ロータリーはセントルイスで国際大会で、あの有名な決議23の34号を採択し、ロータリーの実践原理を確立しました。9月1日、関東大震災に対して RI から25,000ドルを、震災復興資金として贈られ、これが呼び水となり世界各国503クラブからのものを含めると、89,800ドルの義援金がよせられました。東京クラブはこの義援金で東京・横浜の小学校188校へ備品寄贈、東京孤児院の新築、殉職警察官遺族への援助、会員・木下正中の産科病院再建事業を行いました。

1921年（大正13）8月神戸RCが3番目（登録番号1986）、12月名古屋RCが4番目（登録番号1907）、1925年（大正14）12月京都RCが5番目（登録番号2184）の誕生が続きました。1927年（昭和2）、ロータリーの原理の確立を前提に、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の四大奉仕部門を確立して、原理探求のロータリーから実践のロータリーへと発展していきました。また、6月横浜RCが6番目（登録番号2669）に誕生しました。

1905年（明治38）に始まった20世紀初頭のロータリー運動は、当時のロータリアンたちは高々と理想を掲げ、その理想に燃えて行動した、まさに熱く熱く燃えたロータリーがありました。ロータリー創立当初からクラブの中に伝統的にあった考え方というのは、企業経営上のいろいろの発想やアイディアを交換すること、「exchange of idea」という考え方です。これは、ロータリーが拡大していく過程で忘れてしまった1つだと言われています。1905年会員の親睦を守るためにロータリーの組織上の大原則として採択された「1業種1会員制」の背景について検討する必要があります。

さらに、人間は、「自分だけはまず栄えておかねければ、いつ潰されるかわからない」と思っていますから、「人のことなど考えている暇はない」、「倫理のことなど考えている暇はない」といった自分だけが隆々と栄えていこうとします。そのために失敗する例がたくさんあります。

一つだけ例を挙げますと、ある下請け業者が親会社から自分生産能力を超えて沢山の注文を受けます。下請け業者は「これは良いことだ」と喜んで銀行から融資を受けて、第2工場、第3工場と設備投資をし

す。ところが、この設備投資がある程度大きくなった時点で、親会社は注文を止めます。すると下請け業者は受注が減少し、融資の返済に困ってしまいます。そこで、親会社に「何とかしてください」と、泣きつきます。親会社は、「それじゃあお金を貸しましょう」と、言って資本参加をして結局その下請け業者を乗っ取ってしまうのです。

このことは、企業が比較的短期間に大資本に成長していく過程に見られる、恨み辛みのある話です。この事例をみなさんはどのようにお考えになるでしょうか。一般常識からすると、「そりゃあ親会社が悪いじゃないか」と言うでしょう。

ロータリーの考え方はそうではありません。実は、下請け業者が自分一人で儲けようとしたところに問題があるのです。正に一般社会の常識とは逆転の発想ですが、自分の生産能力を超える注文が来たときは、「同業者もいることだから、これ以上のご注文は同業者の方へどうぞ」と言っていれば良かったのです。しかし、そうは言うものの、企業経営者たるものは自分の企業を安泰にさせたいので、注文が来ればどんどん受けて儲けたくります。これは自然の感情の趣くところで、大変難しい所なのであります。

これに対して、ある有名なお菓子屋さんは午後3時頃になると必ず商品が売れきれてしまうのです。有名なお店ですので作れば作るほどいくらでも売れるのですが、その程度の商品しか作らないのです。それは何故かと言うと、確かに作れば作るほどいくらでも売れて儲けに儲けることができます。しかし、自分の生産能力を超えて150%、200%、300%の商品を作っていけば、確かに儲かるかもしれませんが、粗悪品が出てくる可能性があります。一つでも粗悪品が出るとお客様に迷惑をかけるばかりか、自分の信用を傷つけることになります。この信用というものは金銭をもってしては計りしれないほど価値のあるものでして、一旦失ったらもう取り返しのつかないものです。したがって、このお菓子屋さんは精魂込めて、自分の生産能力の80%の商品しか作らないのです。だから午後3時には売り切れるのです。これが実は職業の倫理です。自分の生産能力を超えて注文が来たときは、同業者に譲るのです。これが同業者共存共栄の倫理です。

このように、昔から人間が金を求めて身を滅ぼした例は沢山ありますが、人間が心を求めて身を滅ぼした例は、聞きません。ロータリーは、倫理の裏付けのある企業活動が永続的に安定した利潤を獲得して、自由競争を勝ち抜くことを、原理的にも実践的にも実証していくものです。

既に立証されている有名な事実としては、1929年10月24日にニューヨーク証券取引所で株価が大暴落をしたことを端緒として世界的な規模で各国の経済に波及した金融恐慌、10月24日は「暗黒の木曜日」として知られ、南北戦争に次ぐアメリカの悲劇でありましたが、ロータリアンは一人も倒産していなかったという事実があります。このことからロータリーの職業奉仕は、不況期に強い哲学とされています。なぜ、当時のロータリアン達は、倒産しなかったのかといいますと、例会での発想の交換で、倫理的な企業活動のノウハウを開発

して、自らの企業に実践してきた功德からとされています。

多くのロータリアンたちが、例会で食事をとり、会長挨拶や報告・卓話を聞いて帰ります。大都會のクラブでは、卓話も聞かず、食事だけして帰っていくロータリアンも沢山います。企業上の知恵の交換、発想の交換は全くありません。ロータリアンに自己研鑽や切磋琢磨という意識すらなくなりました。

ロータリーの基本原則は、2つあります。1つは「1業1会員制の原則」であり、もう一つは「規則的例会出席の原則」です。ところが、1業1会員制の原則は、2001年(平成13)の規定審議会で廃止され、規則的例会出席は、1968年・昭和43年に降たび重なる規制緩和で60パーセント出席規定になってしまいました。

さらに、1980年(昭和55)には、ロータリーの個人倫理の核だった1915年(大正4)のロータリー道徳律もRIレベルで規定審議会で廃止されました。

1999年(平成11)から2000年のRI会長・ラビッツァーさんは「往年の隆々と栄えたロータリーをもう一度取り戻そうじゃないか」と言っています。今、1業1会員制はRIレベルでは消滅しましたが、クラブレベルでは生きています。1つの職種から5人獲るのか、1人しか獲らないのかはクラブ自身が決める、クラブ自治権の問題だからです。日本で3番目に出来た神戸ロータリークラブでは、1業種1会員制です。RI規定審議会で「5人まで獲ってもいい」と決めたから5人獲らなければならないわけではありません。クラブ自治権の問題だからです。

「歌を忘れたカナリヤ」という歌がありますが、これは世の中に害を撒き散らすものではありません。しかし倫理を忘れた職業人は、やがて国を滅ぼすことにもなりかねません。「古代ローマの貴族は同性愛に耽り、そのために子孫を産めなくなって50年して古代ローマ帝国が没落していきます。そのあとで、中世の暗黒時代がやってきました」。こういうことをいう学者の説もあります。1国の興亡は、国民の倫理の退廃によることがあります。

ロータリーは、人間としてあるべき心、倫理を高めることをロータリー運動の第一義としていることから、ロータリーが倫理運動と呼ばれる所以です。従って、ロータリーとは何かを一言でいいますと、「それは倫理運動」と言うことになります。

しかしながら、ロータリーが105年前から倫理運動を標榜していたのですが、北海道のミートホープ事件、漢字検定事件、赤福の事件、吉兆の事件などはロータリアンが起こした事件です。古きよき時代のロータリーでは、絶対に考えられないことでした。

時代が変化しても、創立時の基本原則に立ち返り、「ロータリーが倫理運動」であると胸を張って言えるロータリアンを目指しましょう。

※参考文献・引用文献

『今だからこそ問う、ロータリーとは何か』

伊丹 RC 所属、パストガバナー深川純一(弁護士)
『ロータリー情報マニュアル 2007 版』

RI.D2650 ロータリー情報マニュアル編集委員会



決議23-34(全文・日本語)

社会奉仕活動に対する方針

(Policy Toward Community Service Activities)

社会奉仕に関する 1923 年の声明

次の声明は 1923 年国際大会で採択され、以後の国際大会で改正されたものである。

ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、および社会生活に奉仕の理想を適用することを奨励、育成することである。

この奉仕の理想の適用を実行することについては、多くのクラブが会員による奉仕にその機会を与えるものとして、さまざまな社会奉仕活動を進めてきている。以下に掲げる諸原則は、ロータリアンおよびロータリー・クラブの指針として、また、社会奉仕活動に対するロータリーの方針を明確に表すものとして適切であり、また管理に役立つものであることを認め、これを採用するものである。

1) ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

2) 本来ロータリー・クラブは、事業および専門職務に携わる人の代表として、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、次の四つのことを実行することを目指している人々の集まりである。まず第 1 に、奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと。第 2 に、自分たちのあいだにおいても、また地域社会に対しても、その実際例を団体で示すこと。第 3 に、各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すこと。そして第 4 に、個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによって、ロータリアンだけでなく、ロータリアン以外のすべての人々が、理論的にも実践的にも、これを受け入れるように励ますことである。

3) RI は次の目的のために存在する団体である。

- a) ロータリーの奉仕の理想の擁護、育成および全世界への普及。
- b) ロータリー・クラブの設立、激励、援助および運営の管理。
- c) 一種の情報交換所として、各クラブの問題を研究し、また、強制でなく有益な助言を与えることによって各クラブの運営方法の標準化を図り、社会奉仕活動についても、既に広く多くのクラブによってその価値が実証されており、RI 定款に掲げられているロータリーの綱領の趣旨にかない、これを乱すような恐れのない社会奉仕活動によってのみ、その標準化を図ること。

4) 奉仕するものは行動しなければならない。従って、ロータリーとは単なる心構えのことをいうのではなく、また、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表さなければならない。そして、ロータリアン個人もロータリー・クラブも、奉仕の理論を実践に移さなければならない。そこで、ロータリー・クラブの団体的行動は次のような条件の下に行うように勧められている。いずれのロータリー・クラブも、毎年度、何か一つの主だった社会奉仕活動を、それになるべく毎年度異なっていて、できればその会計年度内に完了できるようなものを、後援することが望ましい。この奉仕活動は、地域社会が本当に必要としているものに基づいたものであり、かつ、クラブ会員の一致した協力を必要とするものでなければならない。これは、クラブ会員の地域社会における個々の奉仕を奨励するためにクラブが継続的に実施しているプログラムとは別に行われるべきものとする。

5) 各ロータリー・クラブは、クラブとして関心があり、またその地域社会に適した社会奉仕活動を自主的に選ぶことについて絶対的な権利をもっている。しかし、いかなるクラブも、ロータリーの綱領を無視したり、ロータリー・クラブ結成の本来の目的を危うくするような社会奉仕活動を行ってはならない。そして RI は、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、どんなクラブのどんな社会奉仕活動にせよ、それを命じたり禁じたりすることは絶対にしてはならないものとする。

針として以下の準則が推奨されている。

a) ロータリーの会員の数には限りがあるので、ロータリー・クラブは、市民全体の積極的な支持なくしては成功しえないような広範囲の社会奉仕活動は、他に地域社会全体のために発言し、行動する適切な市民団体などの存在しない土地の場合に限り、これを行うこととすべきであり、商工会議所のある土地では、ロータリー・クラブはその仕事の邪魔をしたり、横取りをしたりすることのないようにしなければならない。しかし、ロータリアンとしては、奉仕を誓い、その理念の教えを受けた個人として、その土地の商工会議所の会員となって活動すべきであり、また、その土地の市民として、他の善良な市民と一緒に、広くすべての社会奉仕活動に関与し、その能力の許す限り、金銭や仕事の上でその分を果たすべきである。

b) 一般的に言って、ロータリー・クラブは、どんな立派な事業であっても、クラブがその遂行に対する責任の全部または一部を負う用意と意思のない限り、その後援をしてはならない。

c) ロータリー・クラブが奉仕活動を選ぶ場合に宣伝をその主たる目標としてはならないが、ロータリーの影響力を拡大する一つの方法として、クラブが立派に遂行した有益な事業については正しい広報が行われるべきである。

d) ロータリー・クラブは、仕事の重複を避けるようにする必要があり、総じて、他に機関があり、それによって既に立派に行われている事業に乗り出すようなことをしてはならない。

e) ロータリー・クラブの奉仕活動は、なるべく現存の機関に協力する形で行うことが望ましいが、現存機関の設備や能力が目的の遂行に不十分である場合には、必要に応じ、新たに機関を設けることにしても差し支えない。ロータリー・クラブとしては、新たに重複した機関をつくるよりも、現存の機関を活用することのほうが望ましい。

f) ロータリー・クラブはそのすべての活動において、宣伝者として優れた働きをし、多大の成功を収めている。ロータリー・クラブは地域社会に存在する問題を見つけ出すことはしても、それがその地域社会全体の責任にかかわるものである場合には、単独でそれに手を下すようなことはしないで、他の人々にその解決の必要を悟らせる努力をし、地域社会全体にその責任を自覚させて、この仕事がロータリーだけの責任にならないで、本来その責任のある地域社会全体の仕事になるようにしている。また、ロータリーは、事業を始めたり、指導したりするが、一方、当然それに関心をもっていと考えられるほかのすべての団体の協力を得るように努力すべきであり、そして、当然ロータリー・クラブに帰すべき功績であっても、それに対する自分のほうの力を最小限度に評価して、そのすべてを協力者の手柄にするようにしなければならない。

g) クラブがひと固まりとなって行動するだけで足りるような事業よりも、広くすべてのロータリアンの個々の力を動員するもののほうがロータリーの精神によりかなっていると言える。それは、ロータリー・クラブでの社会奉仕活動は、ロータリークラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられたいわば研究室の実験としてのみこれを見るべきであるからである(23-34、26-6、36-15、51-9、66-49)。

『2007 年手続要覧』P84-86 から

ロータリー・ジャパン <http://www.rotary.or.jp/>

ROTARY NEWS



2010 年 9 月 13 日発行【月刊】
(財)ロータリー米山記念奨学会



ハイライトよねやま 127

1

寄付金速報 — 米山月間に向けての寄付状況は？ —

8 月までの寄付金は前年同期と比べて1.9%増、約560 万円の増加となりました。普通寄付金が3.3%減、特別寄付金が13.4%増と、普通寄付金は伸び悩んでいるものの、特別寄付金は比較的好調で、8 月のみの単月寄付額としては過去10 年間で2 番目に高い結果となりました。

10 月は米山月間です。事務局では“よねやま”を皆さまに知っていただくためのさまざまな資料をご用意しています。

今年度は税制優遇の対象が昨年よりも拡大し、普通寄付金にも適用可能になるなど、寄付のメリットが増えています。10 月の米山月間には、事業理解の推進とともに、さらなるご寄付のご協力をお願い申し上げます。



豊橋ゴールデンRC（第2760 地区）ではWCS活動として、タイのスリウオンRC（第3350地区）と協力して、聴覚障害児の小学校に10 万円分の図書を寄贈。7 月19 日に現地で行われた贈呈式では、米山学友のジャンミシー・パッタモンさん（タイ/2001-03/豊橋ゴールデンRC）が通訳として協力しました。同クラブ米山奨学委員長の山本雅久氏は次のように語っています。

「パッタモンが米山奨学生として初めてクラブに来た時は、日本語もやっと話せるレベルでした。時折、自宅に招き、食事を共にするうちに私の家族とも親しくなり、我が子のような存在になりました。次男の卒業式と彼女の卒業式が重なった時、妻は彼女の母親代わりを選び、

自分の着物を着せて、一緒に卒業式に参列したほどです。今回のタイ訪問では、彼女の通訳のお陰で先方地区と細部まで打ち合わせることができました。学友が自国の子供たちのために進んで協力してくれたことを嬉しく思いますし、その心がより大きく育ち、いつか母国のロータリアンになって、タイのロータリー活動に役立ってくれることを祈っています」

Birthday



誕生日

10月のお祝い



会員誕生 24日 丸山征夫君 26日 永桶俊一君 28日 丸山徹夫君

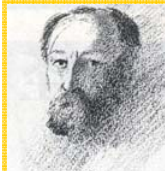
夫人誕生 11日 谷 ひさ子（晴夫）さん 14日 熊倉豊子（高志）さん
19日 野中恵美子（悟）さん 20日 大溪明子（秀夫）さん

結婚記念

3日 齋藤嘉一君 ・ 千代子さん	3日 吉井正孝君 ・ 敏子さん
6日 馬場信彦君 ・ 淑子さん	7日 鈴木 武君 ・ マサ子さん
7日 田中悌司君 ・ 秀幸さん	8日 野崎正明君 ・ 裕子さん
11日 石山荘一君 ・ 敏江さん	13日 丸山征夫君 ・ 千代子さん
13日 若井 博君 ・ 敏子さん	20日 銅冶康之君 ・ なをみさん
21日 西巻克郎君 ・ 富紗さん	24日 荒澤威彦君 ・ 政子さん
28日 田代徳太郎君 ・ 恵美子さん	

＊ おめでとうございます ＊

表紙について



オディロン・ルドン(1840～1916)

■「あずまやの下の二人の女」

1905～10 年頃

岐阜県美術館

ロータリーの友 1987 年 11 月号表紙より

三條南ロータリークラブ週報

2010. 9.27

No.1968 No.10